

日本の知恵、
プラスチックの知恵

いにしえの塗装技術

室町時代には、すでに衣類を入れる蓋付きの箱として作られていたという葛籠つづろ。もともとは、その名前の由来である山野に自生するツヅラフジのツルを材料にしていました。その後、江戸の元禄時代になると、竹やヒノキを割いて網代に組んだものに加工を施して使うようになりました。これは、江戸の神田鍋町のつづら屋甚兵衛が考案したと言われています。

その製法は、籠の内外に和紙をフノリで貼り、その上を渋柿で塗って乾燥した後、漆で塗り上げていきます。こうして薄くても強靱な和紙と、漆の特性を活かした葛籠は軽くて丈夫で防菌効果をも兼ね備え、着物などの収納箱として重宝されてきました。

そして、住友ベークライトの「デコライノベア[®]」は、現代の塗装技術を駆使したメラミン化粧板。キズがつきにくく耐水性・耐熱性・耐汚染性などに優れた機能性はそのままに、厚さが0.2mmと薄くなったことで軽量化を実現。豊富な色や柄も兼ね備えて、曲面などの加工も簡便になりました。

decola
innovair
デコライノベア[®]



葛籠



プラスチックのパイオニア

 住友ベークライト株式会社

デコラ・イノベア開発部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <http://www.sumibe.co.jp>